

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-031	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Emergency department visits at Veterans Health Administration hospitals related to alcohol intoxication: A ten-year retrospective 退役軍人病院の救急外来への急性アルコール中毒に関連した受診：10年間後ろ向き調査		
執筆者		
Farkas A, Mandich M, Sherman K.		
掲載誌		
Alcohol. 2024 Sep;119:23-27. doi: 10.1016/j.alcohol.2023.12.001.		
キーワード	PMID	
退役軍人病院、アルコール中毒、頻回受診、白人中年男性	38048965	
要旨		
背景： アメリカに複数ある退役軍人病院では、アルコール中毒に関連した救急受診が医療リソースに与える負担が大きいと考えられているが、その詳細は十分に研究されていない。本研究では、退役軍人病院におけるアルコール中毒関連受診の実態を明らかにし、その傾向や特徴を分析することを目的とした。		
方法： 2010年から2019年にわたり、退役軍人病院の救急受診の記録を後ろ向きに調査した。血中エタノール濃度 50mg/dL 以上またはアルコール中毒に関連する ICD9/10 コードをもとにアルコール中毒の患者を特定した。救急外来への訪問頻度、患者属性、医療的対応について詳細に解析した。		
結果： 調査期間中 251,310 件のアルコール中毒関連の救急受診、95,123 名の患者が確認された。これらの患者は主に中年男性であり、白人が多数を占めていた。全体のうち 77%は再来患者によるものであった。患者の 68%が入院または転院を必要とし、特に精神科への入院が多くを占めた。また、頻回受診者は全体の 4.4%に過ぎないものの、全受診件数の 32%を占めていた。さらに、アルコール中毒関連での救急外来受診件数は救急外来受診件数全体の 1.3%を占めており、この数値は他の医療機関と比較して低い割合であったが、これは退役軍人の医療制度が提供する一次医療や精神科ケアが影響している可能性が示唆された。		
結論： 急性アルコール中毒関連の救急外来受診は、退役軍人医療機関における重要な課題であり、特に頻回受診者に対する包括的な介入が求められる。本研究は、アルコール使用障害（中毒）患者の予防的ケアが医療リソースの効率的利用に貢献する可能性を示している。		